

平成 22 年第 2 回定例会 文教常任委員会

平成 22 年 6 月 11 日

行田委員

よろしくお願いいいたします。

私の方からも 1 点だけ質問させていただきたいんですけども、県立高校でもこの 4 月に新生を受け入れましてスタートを切ったところでありましてけれども、今、社会構造の変化、低迷する経済の状況、背景があり、県立高校で学びたいという学生さんが増えているという認識をしております。そういう意味から、今から準備をしていく必要があると思いますが、来年度の県立高校生徒の募集数の増につきまして、今から議論させていただきたいと思います。

まず、現状について数字で確認をしていきたいと思うのですが、ここ何年間かの奨学金の伸びを伺いたいと思います。

学校経理課長

過去 3 箇年の定期貸付の採用状況でお答えいたします。

平成19年度は、公立・私立合わせまして4,198名、平成20年度は3,929名、平成21年度は定期採用4,231名に、緊急経済対策として国の交付金を活用した追加募集を行い、621名、合わせまして4,852名でございます。

行田委員

ということは 2 割ぐらい増えたということかなと思います。やはり厳しいものですね。

昨年度から中学校段階で高校奨学金の申込み、予約制度を導入されたわけですが、この実績はどうなっているのか。また、昨年度の新生と比較して、どの程度になっているのか確認させていただきたいと思います。

学校経理課長

今年度の予約採用でございますが、915名でございます。昨年度の 1 年生は 1,842名でございましたので約半数。ただし、今、定期採用の審査をしておりますので、その中にも 1 年生はいるのかなと考えております。

行田委員

分かりました。やはりニーズが高かった。それに対してしっかりこたえたこの制度が生きているということなのかなと思います。

今年度から授業料の無償化というのが始まっているわけですが、これまで授業料の免除というものを行ってきたわけです。ここ数年の免除件数の状況を知りたいんですけども。

学校経理課長

過去 3 箇年の免除者数でお答えをいたします。

平成19年度、生徒数の全体は11万4,768名、その中で免除者数が7,618名、平成20年度、11万6,226名のうち免除が8,188名、平成21年度が11万8,675名のうち、免除者数は9,159名でございました。

行田委員

この数字を見ましても、非常に増えていますね。一昨年から昨年にかけて約 1,000名、平成19年と比べても増えているという状況だと思います。

昨年度の中学生の全日制高校への進学率についてお聞きしたい。実際、家計の状況を背景に、定時制に進学される方が増えているという報道も結構あるわけですが、これもまた別の機会でいろいろ議論していきたいんですけども、とりあえず今日は全日制について議論したいんですけど、昨年度の中学生の高校進学率、全日制はどの程度であったか。また、ここ数年の県立高校の生徒募集、入学者の状況につきましてお伺いしたいと思います。

高校教育企画課長

まず、1点目の進学率でございますが、平成21年度、県内の公立、私立の中学校の卒業生が高等学校等に進んだ率は97.8%でございますが、これを全日制のみで見ますと89.9%でございます。さらに、県内の公立の中学卒業生が公立高校、私立高校の全日制に進んだ率は88.7%という状況になってございます。

2点目にございました定員と入学者の状況でございますが、平成19年度から申し上げます。平成19年度全日制の当初募集定員は3万9,912人、入学者の実績でございますが、3万9,957名となっております。平成20年度では定員が3万9,624人、入学者は3万9,836人、平成21年度では定員が4万79名、入学者は4万360名、平成22年度についてはまだ入学実績は出ておりませんが、定員につきましては4万1,836名、こういった状況でございます。

行田委員

定員も若干増えているというところはあると思うんですが、本県の状況を見ますと私学への進学者が比較的多い県なんだなという認識があるわけですけども、私学は私学として色々な特色、事情があるということは承知しているんですけども、今いろいろな議論をさせていただきました。いろいろお話も数字もいただきました。社会構造の変化や経済情勢を背景に、県立の全日制高校への進学希望、そうした学生さんが非常に多いと認識をしております。とにかくそうした希望にこたえていくという体制が非常に重要だと思っています。全日制高校への進学率が向上するように、今まで以上に対応していかないとはいけないと思うんですが、いかがでしょうか。

高校教育企画課長

御指摘がございましたように、全日制高校への進学希望率というのが非常に高い状況でございます。そういった中で、先ほどお尋ねにもございましたけれども、奨学金の予約制度、こういった新たな取組も進め、経済状況により高校進学を断念せざるを得ない生徒さんが出ないようにしてまいりたいと考えておりますし、いわゆる無償化によりまして生徒の進学状況の変化、こういったものもとらえてまいりたいと思っておりますし、先ほど申し上げましたように、全日制の進学率というのは、公立高校、私立高校、これを合わせてということでございますので、公私がこれまで以上に更に協調することによって進学率を向上させる取組に努めてまいりたいと考えております。

行田委員

最後に要望でございます。

今、課長の御答弁もございました、高校を経済的状況で断念せざるを得ない、そういう状況を配慮していくというのは非常に重要だと思えます。是非頑張ってください。

冒頭からいろいろ御答弁いただきました奨学金の伸び、さらには授業料免除の伸び、この伸びをすべてやり切るのは難しいわけですが、定員の伸びと比べましても、やはり格段に増えているという今の社会情勢だと思います。来年度の入試に向けて着実に生徒の希望にこたえる、そうした動きをお願いいたします、私の質問を終わります。